

## 共同参画型政策立案・実施プロセスに関する共同声明

## - 武庫川流域の総合的な治水対策のための円卓会議設置の提案 -

兵庫県知事 貝原 俊民 殿  
兵庫県河川計画室 御中  
兵庫県河川開発課 御中  
公共事業をチェックする議員の会各位  
報道各位

Page 1/2

私たち21の市民団体は、“真の民主主義”と“真の住民参加”の実現のために、今日ここに、以下の声明を共同で発表します。この共同声明の持つ意志と私たちの信念が多くの人々に伝えられ、そして、その多くの人々と共にこれらを実現できることを願っています。

平成9年(1997年)に兵庫県による武庫川ダム建設計画が公のものとなって以来、地元住民を中心とする市民団体は各々、情報公開制度を通じた情報公開、県と住民の対話の機会である地元説明会への積極的参加、本年1月の環境影響評価手続における第1次住民意見書の提出などを通じ、さまざまな観点から武庫川ダム建設計画への疑問を投げかけて来ました。

しかし、私たちのこれらの活動は、これまでの多くの報道にあるような「ダム反対」のみを訴えて来たものではありません。私たちがそれ以上に重要と捉えているのは、「治水対策の必要性の検証」「本質的な洪水要因の解明と対策案の検討」「ダムよりも先にすべき方策の検討」「ダム以外の治水方法の検討」といった、もっと本質的なところに立ち返って議論を重ねることに他なりません。

また、私たちは、この武庫川流域の治水について、「人の生命・財産」か「自然環境の保全」かといった二者択一で排他的に捉えているわけでもありません。本質的なところに立ち返ってこそ、自然環境に過度な負担をかけなくても人の生命・財産を守る方法が見つかると考えているのです。実際、人を優先するあまり自然を犠牲にしたことでかえって人が暮らしにくくなった例は過去に沢山あります。

しかし、これまで私たちはこれらのことを必ずしもうまく表現できていたとは限りません。また、現行の政策立案や実施過程においては、制度的に、こうした私たちの考えを反映させるプロセスが十分に設けられているとはいえないことも確かなことです。

本年7月10日、武庫川を愛する会、及び、その賛助団体18団体は、兵庫県知事宛にある提案を行

いました。それは、行政・市民ともに、過去の対立の構図を謙虚に省みてもっとフランクに、ともに治水を考えること、総合治水を武庫川の河川事業としてだけでなく、道路・農林・環境・教育・都市・防災・下水道等を含む複数の分野や部局にまたがる総合的な視点から考える『治水のための総合計画』を立案すること、そして、この総合計画立案プロセスにおいて、実践的アイデアを行政・住民からともに出し合い検討しあうことで、「住民のアイデア・人材の活用」と「理解・納得の形成」の双方が図られる透明性・実効性の高い政策立案・実施手法を構築して行くことの3つでした。

この提案を契機に、以降、8月には兵庫県河川計画室室長・河川開発課課長より武庫川を愛する会への会談のお申出、その席上で「住民との情報共有の下での、データ検証を含む治水計画づくり」への意向表明、これに続き、9月県議会における「新河川法に基づく河川整備基本方針を新たに策定すること」「合意形成の新たな取組を行うこと」「流域での対応を含む総合的な治水対策を検討していくこと」との知事答弁、そして、これについての一部新聞報道といった一連の経過をたどっています。

私たちはこれら一連の経過を敬意を持って受け止めています。同時に、これらを「開かれた県政」の新たな第1歩として期待しています。

そこで、私たち市民団体は「武庫川流域の総合的な治水対策のための円卓会議」の設置を共同で提案致します。「円卓会議」は英語で“Round Table”といい、みなが同じ1つのテーブルにつき、そのテーブルの上にすべての課題や情報をオープンにし、その課題解決をみんながアイデアを出し合うことによって解決して行くさまをイメージしたものです。非常に雑駁に云えば、私たちの市民団体だけでなく、さまざまな団体、及び、それらの団体がつながりを持つ団体・知人・専門家等、県においても、河川計画室・河川開発課のみならず、道路・農林・環境・教育・都市・防災・下水道等凡そ治水に関係しそうな部局すべて、そして、たとえ個人であっても志を有

## 共同参画型政策立案・実施プロセスに関する共同声明

## - 武庫川流域の総合的な治水対策のための円卓会議設置の提案 -

Page 2/2

する者たちが何の制限も伴うことなく会することのできる場（公開性）、すべての者が等しく意見を述べる権利と義務が保障される場（平等性）、そこでの話し合いの内容・プロセスすべてが歪曲・修飾・割愛されずに正しく広く一般に提示される場（透明性）、そして、非難・言いつ放しではなく治水の必要性やその具体的プランを共に考え共に創る場（協働性）、この4つの性格をすべて合わせ持つものです。そして、この場では、「ダム」でもなく「ダムありき」でもなく「河川整備」でもなく「武庫川流域の総合的な治水対策」を協議することを提案致します。

最後に、この場を借りて改めて申し上げます。環境保全は21世紀を考える時、あらゆる施策の原則としていかねばならないことです。その意味で、これからの治水を考える時、環境保全と治水の両立にこそ叡智を集めることが必要です。そして、これらみなが同じテーブルで議論しアイデアを出し合いながら考えて行く必要があるのです。

私たちは、このプロセスこそが“真の民主主義”・“真の住民参加”の姿であると考えています。そして、この先に実現できるのが“真の共同参画社会”であり“真の環境共生社会”であると思います。

私たち21の市民団体は、既にその用意があることをこの共同声明に託したいと思います。

ありがとうございました。

## 共同声明

あーす・いたみ（伊丹市）  
芦屋川に魚を増やそう会（芦屋市）  
猪名川の景観を守る会（川西市）  
猪名川のゴミを拾う会（川西市）  
香菊会（伊丹市）  
逆瀬川の自然を守る会（宝塚市）  
篠山市有機農業実践会（篠山市）  
三田の水と緑を守る会（三田市）  
宝塚政策研究サロン（宝塚市）  
多紀の自然と人間のあり方考える会（篠山市）  
生瀬の自然と文化を守る会（西宮市）  
仁川の自然を考える会（西宮市）  
西宮北部の自然と環境を考える会（西宮市）  
兵庫県勤労者山岳連盟（神戸市）  
兵庫の川サミット連絡協議会（神崎郡）  
武庫川ネットワーク（武庫川流域）  
武庫川の自然を考える会（西宮市）  
武庫川の自然を守る会（尼崎市）  
武庫川を愛する会（西宮市）  
リメンバー1・17防災連絡協議会（宝塚市）  
21世紀の武庫川を考える会（西宮市）